

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 担当 学習指導部	・校内で研究授業を行い、生徒が主体的、対話的で深い学びが行えるように授業改善に取り組みます。 ・授業におけるICT機器の活用を継続的に行い、「協働的な学び」の実践を目指します。 ・指導と評価の一体化に取り組み、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価について明確な基準を提示できるよう取り組みます。

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>令和4年度の学習状況調査の結果からは、各教科ともに横浜市の平均と同じ程度かやや上回っていることが分かる。</p> <p>○3年生では、各教科において基本的な内容が定着している。学習意識については教科によって多少の差はあるものの、学力と学習意識には正の相関関係があることが分かった。</p> <p>○2年生では、学力は市の平均と同じ程度である。思考・判断・表現に関しては市の平均を超えている教科も多くあった。</p> <p>○塾を含む学校外での学習時間が多いことも結果として表れており、学習内容の理解につながっていると分析する。</p>	<p>○全教科での基礎・基本の充実と、生徒の主体的な学びを促す指導の工夫を行う。</p>
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	国語○小集団の意見交換を通した、自分を高める価値を見いだす姿勢を身につけさせる。 ○継続した語彙力向上のための漢字練習を行う。 社会○資料を丁寧に読み取り、社会的事象の特徴を考察することができるようにする。 ○資料を活用し、課題を探索し解決する力を身につけられるようにする。 数学○1年次にTT(チームティーチング)を行い、基本の定着に生かす。 ○ICT教材の活用を行う。 理科○基礎・基本の定着を目指す。1年次にTT(チームティーチング)を行う。 音楽○表現活動の充実。歌う楽しさ、表現する大切さを感じ取れるような授業を展開する。 美術○机間巡視を多く取り入れ、作業過程を重視し、生徒一人ひとりの課題に対応すること で、個々の指導を徹底する。 技術・家庭○各授業でのゴール(目標)を明確にし、実生活とリンクするような授業を展開する。 ○ICT機器を活用した授業を展開する。 外国語○1年次には少人数授業を行い、英語に苦手意識をもった生徒に対応する。 ○AETの授業を積極的に行い、生徒の関心を高めていく。
下半期	上半期に立てた具体的な行動プランを継続して実践しつつ、現状に合わせて追加・修正を行い、目標実現を目指す。